

25. 子どもハウス

記録：川野優月

場 所：密蔵院（春日井市熊野町 3133）
対 象：小中学生
参 加 費：無料
代 表 者：中川國弘
初 回：2016年4月28日（土）29日（日） 毎月第4土日 1泊2日
原則毎月参加できること、定員は20人程度

参加日時①：7月23日（土）12：40～24日（日）9：00
参加人数：23日→子ども7人、学生6人、OBOG2人 調理スタッフ2人
24日→子ども4人、学生2人、OBOG1人
参 加 者：井上実、川野優月

参加日時②：10月22日（土）12：40～19：00
参加人数：子ども3人、学生6人、調理スタッフ2人
参 加 者：井上実

参加日時③：12月18日（日）9：30～15：00
参加人数：子ども4人、学生2人
参 加 者：川野優月

5月5日こどもの日、雨にも負けずプロジェクトという大地に子どもハウスの種が撒かれ、28、29日に新芽が顔を出しました。5年前に種が撒かれ今は大きく成長した福島っ子キャンプと同じように、この新芽も多くの人たちの真心と支えによってやがて大きな木となって、生活状況が厳しい家庭やその子ども達にとって大きな希望となって成長するような子どもハウスにしていきます。

◎活動の流れ

土曜日

12：40：学生集合
13：30～：子ども到着、自由時間
16：00～：勉強（学生数人は調理開始）
17：00～：お風呂、自由時間
18：00～：ごはん
19：00～：自由時間
21：00～：就寝

日曜日

7:00 : 起床

7:30～ : 朝食（終わり次第掃除）

9:00～ : 勉強

10:00～ : 自由時間

12:00～ : ごはん

13:30～ : おでかけ

16:00 : 解散

◎きっかけ

子どもの6人に1人が貧困と言われ、普通の生活ができない子どもがいる。ひとり親世帯の立場は厳しく、3食が思うようにとれない家庭もある。このような弱い立場にある人を守りたいと思い、経済的な理由などで生活に苦しむ地元の小中学生を支援しようと考えた。子どもの家庭環境は一刻を争う問題であり、子どもたちの心のよりどころとなる場所にしたいと思っている。経済的な理由などで生活に苦しむ子や、家庭環境の厳しい子たちの生きる場所にしてほしい。モノを与えるだけではなく、生きる力をつけてほしい。そのために子どもも自分たちで食事の準備や片づけを行い、規則正しい生活習慣や自立心をもたせるようにしている。

◎場所

春日井市の密蔵院の宿坊を借りている。代表の中川さんが行っているもう一つの活動（雨にも負けずプロジェクトが主催の福島っ子キャンプ）でも利用している。

◎ボランティア

ボランティアの多くは、福島っ子キャンプに参加している中京大学生である。調理をしてくださる大人のボランティアの方や人手不足のときにサポートしてくださるOBOGもいるが、主として子どもとかかわり、運営するのは学生ボランティアである。夜には学生だけでミーティングを行い、その日の子どもたちの様子について話しあい、情報を共有しあっている。

◎食材

朝食はパン屋さんからパンをいただいている。

◎参加者

経済的な事情などで生活に苦しむ地元の小中学生を支援する目的で始めたが、実際は地元の子は参加していない。参加者はリピーターが多いためボランティアスタッフとも仲が良く信頼関係が築けているように感じる。初参加の子どもは中川さんが面談をしている。家庭状況の厳しい子が対象となっているが、そのような状況にある子どものような印象は受けなかった。だが、抱き着いてきたり、添い寝をお願いしてきたりとすごく甘える子どもが多く、金銭的な問題ではなく、環境の面で家庭環境の厳しい子が集まっているのかなと感じた。

◎課題、悩み

当日まで参加人数がはっきりしないことが多く、予定していた人数よりも減ることが多い。親の意識が低く、連絡が取れない人もいる。学生ボランティアも毎月参加できる人が少ないので、運営や食事の提供を手伝うボランティアを募集している。

◎感想

雨にも負けずプロジェクトが主催で開催している「福島っ子キャンプ」を経験している学生ばかりなので、子どもと触れ合うことに慣れていて、こういう学生たちだからこそ難しい家庭環境の子どもを対象にしても運営していけるのかなと思った。子どもをサポートする側の人間が信頼しあって活動をしているのを感じたし、それぞれが子どもの様子を常に気にかけていることが印象的だった。子どもたちは、すごく甘えてくる子ばかりで、安心して甘えられる場所があるのはいいなと思った。